

中央コンピューターサービス

CHUO COMPUTER SERVICE



POINT

お客様に頼られる
地域のITパートナーを目指して

弊社は創業から40年、自治体や地域の皆様と手を携え、地域社会に密着した「地域情報化構想」を推進しています。総合行政システムやふるさと納税管理システムなど行政関連のシステム開発を筆頭に、お客様の事務作業やセキュリティ、情報管理などの課題をITのチカラで解決することで、そこに住む人々の暮らしをより豊かに、快適に彩るお手伝いをしてまいりました。地域のITパートナーとして積み重ねてきた実績を誇りに、最先端の情報化ネットワークを活用して住民や行政、教育などを結び、新しい地域価値の創造を目指しています。



CCSの教育機関向けソリューションサービス

地域のITパートナーとしての歩みの中において、地域教育・生涯教育をテーマに様々なソリューションも展開しています。未来を担う子どもたちに快適かつ夢のあるICT環境を提供するのみならず、子どもたちの教育に携わる教育委員会の皆様・先生方に安全かつ快適な業務環境をご提供。教育委員会様と学校様の事務効率向上を目指し、クラウドバイデフォルトを意識した、教育DXの実践をお手伝いしています。

Share Ray
ファイル共有サービス「Share Ray」
LGWAN-ASPで使えるファイル共有サービス。教育委員会⇔学校間のファイルのやり取りの業務を効率化。

Ray Talk
ビジネスチャットシステム「Ray Talk」
LGWAN-ASPで使えるビジネスチャットシステム。教育委員会⇔学校間の電話でのやり取り時間を短縮し、業務効率化に寄与します。

校務クラウドサービス
校務環境を、クラウド上の仮想デスクトップ環境下でご提供。セキュアな校務環境をご用意します。



中央コンピューターサービス株式会社

■十勝営業所

〒080-0013
北海道帯広市西3条南9丁目23番地
帯広経済センタービル 西館3階
TEL 050-3614-1115

<http://www.ccs1981.jp/> E-mail:gakkouno-oshigoto@ccs1981.jp

■中標津本社

■札幌支社
■後志営業所
■東京営業所



学校ICTに関わる全てをサポート!

ギ ッ ク

G I C

GIGA ICT SUPPORT CENTER

GIGAスクール構想で導入した
端末の運用で困ってませんか?
「CCS」のGIGA ICT SUPPORT CENTERなら
学校ICTに関する悩みを全て解決!

ICTの不安を減らし、授業や校務をスムーズに!

ギック G I C

GIGA
ICT SUPPORT
CENTER

2020年度に文部科学省の事業として実施されたGIGAスクール構想。その事業により、全国各小中学校に導入された一人一台端末環境と校内高速無線LAN環境の利活用をサポートする、CCSの新しいサービスです。端末・ネットワークを整備することをゴールとするのではなく、せっかくお金をかけて入れた端末をどう子どもたちの未来に活かすのか…先生方の目指す教育の実現に向けて、また、文科省の目指す、一人ひとりに個別最適化された対話的で深い学びをより高レベルで実現するために、ITのプロフェッショナルとしての立場で伴走。教育委員会の皆様、そして学校の先生方と一緒に、考えていくサービスです。

GIC とは?

GIGA SCHOOL

GIGAスクール構想とは?

GIGAは、「Global and Innovation Gateway for All」の略で、「全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉」を意味します。Society 5.0時代を生きる子どもたちにとって必須となるICT環境。子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現を目指して、全国の小中学校にICT環境を整備した文部科学省の事業です。



Society5.0時代に向けて

Society5.0とは内閣府の『第5期科学技術基本計画』により定義された「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」のこと。Society5.0においては、Society4.0である現代社会における課題が解決され、人とモノが繋がり、より効率的で快適な社会の実現を目指すものであるとされています。我々は、より豊かで幸せな社会の実現のために、そんな未来の社会を実現するための人材育成の一助となるべく、本サービスを提供してまいります。

これまでの教育実績の蓄積



- 学習活動の充実
- 個別最適化された主体的・対話的で深い学びの実現

SERVICE

GICの 主なサービス

IT機器につきものと思われがちな利用中のトラブルを可能な限り事前に排除する仕組みをご提案。授業中のスムーズなICT機器活用を支援します。ご要望・先生方のレベルに応じた利活用方法研修会や、情報モラル教育に関する研修も承ります。



地域常駐型のICT支援員の育成・派遣!



回線・アクセスを調査分析し、トラブルを解決!



端末のメンテナンスやセキュリティを管理!



先生方向けの利活用研修を実施!



ICT支援員ができること

端末を活用した授業の準備や運用をお手伝い!

先生方にノウハウをレクチャー!

メンテナンスや端末のセキュリティを管理!

ICT支援員をご紹介します!

P3~



十勝エリア担当
山崎祐馬・武田恵実・西村那帆

Q 支援員業務の楽しいところは?

もちろん感謝の言葉をいただいたときや、自分がやったことで子どもたちが喜んでくれている、というお話を聞いたときは最高にうれしくなります。それ以外にも、自分の知識がどんどん増えて、できることが増えていって、積み重ねた経験と知識で問題が解決したとき、そこはかかない達成感を感じます。

Q どんなことを目指していますか?

先生方や委員会の皆様から信頼していただけるような対応を心がけています。そのため、なるべく早く問題解決して、ICT利用に支障が出る時間を少しでも短くするように対応しています。子どもたちの未来のための教育にかかわれることを幸せに思うとともに、私たちがサポートする限り、教育水準において、都会に負けているなんて言わせないぞ、という心意気で取り組んでいます。

P7~



釧根エリア担当
松田優子・川口美緒・水口郁恵

shimootofuke primary school

下音更小学校事例

PROFILE

西村 弦

Yuzuru Nishimura

下音更小学校 教諭。
担当教科は国語と算数。音更町独自のICT推進チームに
スタートメンバーとして参加。

GIGAスクール構想が始まってから、音更町では「ICT推進チーム」と呼ばれる組織を作りました。メンバーは教育委員会、校長会、教頭会、そして教育研究所から小学校・中学校の教諭がそれぞれ1名ずつ選出されて編成。その小学校教諭が私にあたります。CCSにはICTの専門家としてチームに入っただき、運用についてを手取り足取り教えていただきました。

下音更小学校では昨年「ICT部」を3年間限定で新設。私はそのICT部の担当教員でした。私自身PCなどの端末に触れる機会は人並みにあったものの、Chromebookの使い方を本格的に学んだ

のはここ1年くらいで、専門知識はほとんどゼロ。エラーが起きても、それが何を意味するエラーなのかもわからないような状態だったので、正直少し不安な面はありましたね。

導入前からの徹底サポート。
CCS・支援員は心強い味方。

「ICT推進チーム」では委員会が策定したルールをもとに、私達現場の意見を取り入れてもらうという形で進めていました。アカウント名の設定、持ち帰りの取り扱いやケースのこと、長期休暇中の対応策、PTA向けの承諾書の作成など、運用する上でハードルとなりそうな項目をひとつずつ取り上げ、協議しました。その時からCCSは、現場の声にきちんと耳を傾けた上でいろいろアドバイスしてくれていたため、とても安心感がありました。



当初は支援員と聞いてもピンと来ていなくて、回線の整備や端末の用意までしかしてくれないイメージを持っていました。しかし、実際は導入前から端末の使い方について校内研修会を開いてくれたり、導入後もこまめにレクチャーしてくれているのでとても助かっていますね。修理となると1週間ほどかかることを想像しますが、CCSの支援員さんは連絡したらすぐに駆けつけてくれるし、ケースによってはその場ですぐに解決してくれます。

児童全員が使用しても
スムーズに
授業が進行!

現在、下音更小学校は月に2回ほど支援員さんに訪問してもらっています。導入したての頃は複数のクラスが同時にネットを繋ぐと回線の容量が足りなくて止まることも多々あり、その度に支援員さんが各教室を調査・対処するなどサポートいただきました。その後回線を増強したので、今でこそ大きなトラブルはありませんが、やはり教室に居てくれるだけでもとても安心して授業を進められます。授業で使いたいアプリが有料という相談をしたときには、支援員さんが類似のアプリやソフトを探して教えてくれるなど、技術面はもちろん、情報面においてもレクチャーしていただいています。我々には絶対にできない領域を専門の方に教えてもらえるのは本当に心強いですね。



**子どもたちの自由なアイデアを
ICT活用で伸ばしていきたい。**

ICTの導入によって、子どもたちの可能性の広がりを感じています。例えば、私が担任していた学級では、朝の会でスピーチ活動をしていました。児童の中には人前で喋るのが苦手でなかなかうまくいかない子もいました。ですが、端末に打ち込んでソフトで共有するという手法を取り入れたところ、たくさん書くようになったんです。ICTを活用することで自己表現の選択肢が増え、子どもの個性を伸ばせることを実感しました。



まだ児童たちの中には、どのような場面で活用できるかイメージを持っていない様子が見られますが、私としてはどんどん使ってほしいですね。端末を使ってイラストを描いたり、委員会や係活動でアンケートフォームを使ってみたり、学習発表会の練習で動画を撮って見返したり…。そんな風に「まず使ってみよう!」と思える環境をつくるのが私達教員の務めだと思うので、引き続き支援員さんの知恵を借りながら学校のICT化を進めていきたいです。



DATA

音更町立下音更小学校

北海道十勝エリアの小学校。
授業ではChromebookを活用し、デジタル教科書の活用やプログラミング教育を積極的に進めている。児童数はおよそ300人。

<2021年現在>



音更町教育委員会

**GIGA
スクール構想
実現への道!**



**POINT 1 基盤となる
チームづくりからスタート。**

音更町教育委員会は「ICT推進チーム」の事務局として、チームの作成からメンバーの選定を行いました。様々な立場の人がそれぞれの想いややり方をすり合わせる場を目標に、また実際に現場で使っていく先生方が動きやすい形を考えながら話し合いを進めました。事前にたくさん協議することで、結果としてトラブルが起これにくい体質をつくることができました。現在、スタートから1年ほど経ちますが、どこの学校も止まることなく、スムーズな進行を実現できています。



基盤となるチーム作りに
努めました!

音更町教育委員会
教育部
櫻井智和

音更町教育委員会
教育部
清野美里

**POINT 2 学校や先生にとって使いやすいツールをご提案!
授業だけでなく、校務もスムーズに!**



クラウド端末について、委員会は正直なところほとんど素人でした。その上、同じ町内でも学校によってやり方もバラバラ。整備は厳しいものだと考えていました。しかし、CCSは委員会にも学校にも密着して解決策を考えて、サービスややり方を提案してくれたので大変助かりました。例えば、音更町教育

委員会ではCCSのファイル共有サービスを活用しているのですが、そちらも委員会と学校がお互いにとってどんな方法がやりやすいかを考えていただき、容量の大きいファイルも簡単に共有できるツールとしてご提案いただいたものです。以前は先生に来てもらってUSBメモリをお渡しするなど、手間のかかるやり方で進めていたのですが、今ではその負担も軽減され、スムーズな校務進行にもつながっています。



shibetsu Junior High School
標津中学校事例



PROFILE

一條勇太

標津中学校 教務主任。
 担当教科は理科。

Yuta Ichijo

PROFILE

川口美緒

ICT支援員。
 CCS中標津本社に勤務。

Mio Kawaguchi

先生たちが自ら実践。**ICT化が学校全体に浸透。**

一條: GIGAスクール構想導入の5年ほど前から、タブレットを活用した授業を進めていました。主な使い道は教科書の写真や実験の様子を大画面で見せるなどの教材提示。実験の授業などしていると、後ろの席の生徒は様子が見づらいかと思ったところから。その流れで授業や校務での活用方法を調べるようになり、いろいろ実践していました。

川口: 一條先生は私以上に詳しくて熱心で、ご支援する必要がないくらいご自身でいろいろ実践されていますよね。先生のように積極的に動いてくださる先生方が増えると学校のICT化はより躍進していくと思うので、私はなるべく他の先生方や別の小中学校にも良い事例はどんどん伝えるようにしています。

一條: 標津中学校は今ではほとんどの授業で端末が使われている状態です。社会科では生徒たち自身でスライドを作成して発表したり、美術の授業で鑑賞した絵についての感想をアプリ上で共有したり、科目のジャンル問わず活用できています。



川口: 一條先生がいらっしゃるということもあって標津中学校は特にトラブルも起こらないので見守るだけみたいになりつつあるかもしれません。学校に来てすぐに相談を受けると、逆に嬉しくて頑張れちゃいます。

一條: そうだったんですね、僕ら教員からすると支援員さんは教室に居てくれるだけでも良いと思います。「トラブルが起きてもなんとかしてくれる人がいる」という気持ちになれるので、のびのびと授業を進められるのは支援員さんのおかげですよ。

川口: それはよかった! ネット回線の状況が悪かったり、タブレットが使いにくいと先生方がICTの活用に対して億劫になってしまうケースもあるので、そうならないためにも引き続きサポートできるようにしていきたいです。



**自由に正しく使ってもらうために、
 学校がすべきこれからの取り組み。**



川口: やっぱり、せっかく端末も用意されて、整備も済んでいるのに保管庫で眠ったままではもったいない。標津中学校のように他の学校も1日を通して端末を使う仕組みができるよう、支援員として力添えしていきたいですね。

一條: また、こちら側から促して使うという流れではなく、授業でも授業以外でも自然に端末を利用するようになってくれればいいですね。個人の意見や考えを守りつつ、使い方の可能性が増えるというのが理想です。



川口: そうですね、支援員としても教えすぎないことを大切にしています。特に中学生であれば、なにか起こっても自分で解決できるケースが多いです。もしくは友達同士で相談しあったり。生徒たちにも端末を自由に使ってほしいので、見守ることとサポートすることのバランスをとりながら接しています。

一條: ただ、自由に使う一方で、モラル面への指導も強化していかなければなりません。意見を共有できる故に発信しにくいこともありますし、ネットを介したいじめが発生することもあり得る話です。導入時に簡単な指導はあったものの、本格的なこともしていきたいですね。



川口: 事前に教育委員会と中学校独自のマニュアルを作成し、生徒に配布していますが、今後の状況に合わせて刷新したり、定期的に講習会を開くなどが必要ですね。

一條: その時はまた支援員さんにご協力いただきながら、進めていきたいと思っています。



DATA

標津町立標津中学校

北海道根室エリアの中学校。全学年を対象として、体験を重視した「総合的な学習」を進めている。生徒数はおよそ80人。

<2021年現在>



標津町教育委員会

GIGA
スクール構想
実現への道!



POINT 1 研修会からマニュアル作成まで、丁寧なサポートが魅力。

CCSは一から寄り添ってサポートしてくれていたのが非常に助かりました。端末の選定から使い方、遠隔での操作方法、パスワード設定は何か適切か、そもそもどういうものなのか。絶えず疑問はありましたが、研修会を実施していただき手取り足取り教えていただきました。マニュアルも作成いただき、今でも活用しております。冬になると標津町では吹雪で休校になってしまう日もあるので、そのような状況下でも端末を持ち帰って勉強できる環境は良いですね。ゆくゆくは教科書やドリルといった教材もすべてデジタル化できるといいなと思います。

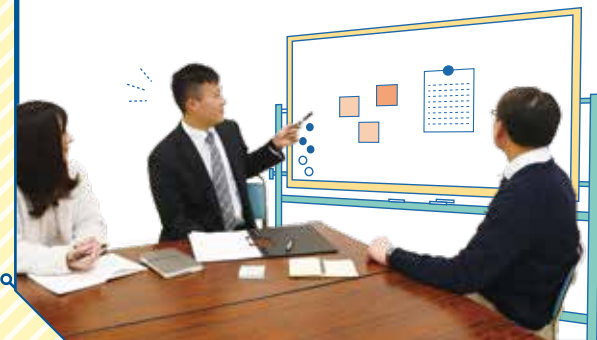
目指すは
全教材のICT化!



POINT 2 地方を言い訳にしない。都会と遜色のない教育環境を。

標津町は2つの地区に分かれるのですが、その地区間で回線整備に差があります。同じ町内の学校であってもできることできないことがあるのはネックですが、逆に言えば両地区の整備の差がなくなれば標津町内の4校で情報共有することが叶います。小さな町なので、回線の整備など遅れている面はまだあります。しかし、「地方だからできない」と諦めるつもりはありません。子どもたちが進学や就職で標津町

を離れたときに、都市部で育った子と比べてICTを使いこなせてない、というケースが起らないようにしたい。そして、しっかりと学んで地元を支える大人に成長してほしい。そのためには、今のうちから現場とのコミュニケーションをとりながら細やかな手配や調整を努力していきたいです。





PROFILE Emi Takeda
武田 恵実
 十勝営業所勤務
 道内の複数の学校に赴き、
 現地でのサポートを担当。

」 ICT支援員の1日

8:30 学校着&朝の確認
 担当の先生と1日の流れを確認します。

8:40 午前の業務スタート
 PC室の更新作業や先生たちからの質疑応答。必要に応じて授業に入り、トラブルが起きた場合はそのサポートを行います。

12:00 昼休み
 学校のお昼と同じ時間帯に休憩を取ります。

13:00 午後の業務スタート
 基本的に午前と同様の業務をこなします。1日に複数の学校をまわることも。

15:00 研修会で指導&報告書作成
 先生向けの研修会に参加。ICTに関するアドバイスや事例の紹介、使い方のレクチャーなど行います。

17:30 退社
 学校の終わる時間帯に業務が終了。1日の報告書を作成し、会社に送ります。



POINT 01 先生にとっても、児童・生徒にとっても、スムーズな授業を目指して。

現地支援員として十勝管内の学校を中心に、必要に応じて遠方のエリアへも伺います。学校のICT担当の先生とお話することが多いですが、他の先生からもご相談を受けたり、学校全体の研修会に参加して授業での活用方法についてをレクチャーするなど、ICTに関することはできるだけ幅広くサポートしています。先生方の話を直接聞ける立場なので、お話しする中でご要望の最優先事項を見つけて、それに向けてどうすればいいかを考えてからアドバイスするようにしています。使う上で気をつけた方がいいことや応用的な使い方など、具体的な事例を交えてお話しすることで実践へのイメージを掴んでもらえると嬉しいです。

支援する中で大切にしていることは、授業を止めないこと。例えば、授業中にひとりの子どもの端末にトラブルが生じた場合、対応が遅れてしまうとその子は「自分のせいで授業が遅れる」「自分だけ先に進めない」と焦りや不安な気持ちになってしまいます。そうならないためにも、常に周りを見ながら機転を利かせて素早くサポートすることを大事にしています。



先生方にとことん寄り添います！

POINT 02 歩幅を合わせた対応で、気持ちの面もサポート。

先生の中にはICTが苦手な方や、ICTについて学び始めたばかりの方もいらっしゃるかと思いますので、できるだけ悩みに共感しながら話を聞いたり、わからないことは一緒に調べて理解していくなど、同じ目線に立ったアドバイスをしよう心がけています。私自身も支援員になる前はブラウザやルーターといった基本的な言葉もわからないほどICT関連の知識が皆無でしたが、ひとつずつ検索したり周囲に尋ねたりして学んでいきました。

ICTという未知の領域を進まなければならないことへ、戸惑いや不安な気持ちを抱いている先生方も多いかと思います。なので、先生方に安心してもらえるようなカウンセリング的な役割も果たせればと思っています。



PROFILE

Naho Nishimura

西村那帆

十勝営業所勤務

現地ICT支援員の
バックアップを担当。

ICT支援員の1日

8:15 **メールチェック&あいさつ**
まずは前日の退社後のメールを確認。各地域のICT支援員にチャットで挨拶をします。

8:30 **業務スタート**
現地にいる支援員から来る質問やトラブルに対応していきます。時には、周囲のスタッフに聞くことも。

15:30 **お問い合わせ&報告書業務**
支援員以外から来ているお問い合わせに対応。現地支援員からの報告書チェックなど。

17:30 **退社**
終わらなかった作業は明日に回すor他の方へ引き継ぎ。

週に一度は在宅勤務! PCさえあれば作業ができるので、ライフスタイルにあわせて週に1回程度は家で業務をこなしています。



POINT 01 支援員同士の連携プレーでスピーディーにトラブルを解決。

私の業務は主に学校などの現地にいる支援員のバックアップです。支援員や学校から来る質問対応や現地で起こったトラブルの原因解明に努めています。現地から送られる情報をもとに、こちらで調査。時には必要な画像を送ってもらうなど、連携して早急なサポートができるよう心がけています。支援員たちとは普段からチャットやビデオ会議でかなり密に連絡を取り合っているの、いつも建設的に話し合いを進められています。

POINT 02 相手にとことん寄り添い対応する中で信頼関係を築く。

支援員の仕事で大切なのは、コミュニケーション能力。相手の立場になって話を聞きとる力、わかりやすく返す力が求められます。何度もやりとりしていくことで信頼関係が築かれていくので、どんなに些細な困りごとでも真摯に向き合うよう心がけています。当初全く原因のわからなかったトラブルでも、相手からの説明や現地調査をくり返して原因を発見できた経験もありました。

GIC お申し込み方法

STEP

1 まずはお気軽にご連絡ください

GIGA環境関連でお困りのことやお悩み、ご相談などがありましたら、お気軽にどんなことでもご連絡ください。



STEP

2 現状のヒアリングを行います

オンラインまたはオフラインで今のお困りごと・学校の状況などをお伺いします。



STEP

3 プランをご提案・お見積りします

ヒアリング内容をもとに、最適なプラン・お見積りをご提示します。



漠然としたお悩みでも結構です。
下記までお気軽にご相談ください。

相談無料 ご相談はこちら!

☎ **050-3614-1115**

✉ **gakkouno-oshigoto@ccs1981.jp**

各教育委員会様に最適なプランをご提案!

